

# シティズンシップ教育の視点からとらえた授業実践（現代社会）

## －課題追究学習を通してシティズンシップの育成を図る－

愛知県立幸田高等学校

教諭 関谷 雅樹

### 1 はじめに

現行の学習指導要領「現代社会」では、最初に「現代に生きる私たちの課題」という大項目において課題追究学習を展開することとなっている。課題追究学習は、新聞・インターネットなどによる情報収集や聞き取り調査、また、グループ討論やディベートなどの多様な方法を用いながら課題を追究していくものであり、「シティズンシップ教育」という視点で見た場合、有効な学習活動となると思われる。

シティズンシップ教育は、他者の意見のよいところを取り入れながら、より多くの人々が納得できる結論を求めるところに長所がある。この点を踏まえ、課題追究学習を通して、シティズンシップ教育で求められる他者とのコミュニケーション能力や社会参画意識及び問題解決能力を育成するとともに、実生活で生きて働く思考力・判断力・表現力も育成できることを実践を通して検証することを目的とする。

なお、授業展開に際しては、ワークシートを準備し、指導の過程でグループ内討議やディベートを実施するなどの工夫を盛り込むことで、先に述べた他者とのコミュニケーション能力、社会参画意識及び問題解決能力の育成を図ることとした。

本年度担当することとなった「現代社会」の授業では、冒頭の課題追究学習において「資源・エネルギー問題」と「生命倫理」を取り上げてみた。これは、生徒が興味・関心をもちやすい題材にしたという意図があるとともに、前者については、昨年、ガソリン価格の急騰や、バイオ燃料の需要増に伴う穀物価格の急騰といった国際的な経済問題が発生し、タイムリーであると考えたからである。また、後者については、臓器移植法の改正が国会の議題に上ったのみならず、病院・救命をテーマとしたテレビ番組が近年増加しており、社会的に関心が高まっていると思われたからである。

### 2 全体の進め方

順序としては、「資源・エネルギー問題」をテーマに課題追究学習を展開し、そこで学んだ手法を使いながら「生命倫理」の追究を行わせた。そして、まとめとして、「生命倫理」について中間レポートを提出させ、内容及び追究の方法について指導した上で、夏休みの課題として最終報告を作成させることとした。なお、授業を進めるに当たってはワークシートを準備し、ブレインストーミング及びKJ法、グループ討論、ディベートを授業の中に織り込み、生徒にはインターネットなどを利用した資料の収集を指示した。

### 3 授業実践Ⅰ（資源・エネルギー問題）

#### (1) ねらい

現代の資源・エネルギー問題全体を俯瞰した上で、その解決方法の一つとして近年普及しつつあるエコカーを題材に取り上げ、その特性及び問題点の追究を通して資源・エネルギー問題の多様性に気付かせるとともに、エコカーについての情報収集や討議を通して、問題の解決方法を考察させる。

## (2) 単元の目標

- ア 資源・エネルギー問題が私たちの生活に深くかかわっていることを認識し、問題解決のために資料や外部の人からの情報を意欲的に収集するとともに、日常の生活の中で省エネルギーを心掛ける態度を身に付けることができる。 「関心・意欲・態度」
- イ 私たちの生活と資源・エネルギー問題のかかわりを多面的・多角的に考察し、生じている課題の解決に向けて自分なりの判断ができる。 「思考・判断」
- ウ 資源・エネルギー問題の解決に向けた方策の一つとして開発されたエコカーについて、インターネット、新聞記事の資料等の情報を基に、資源の枯渇や地球環境問題と私たちの生活のかかわりについて調べ、まとめることができる。 「資料活用の技能・表現」
- エ 資源・エネルギー問題が、食糧問題や人口問題と同様に地球環境の保全に大きくかかわっており、人類が解決すべき大きな課題の一つであることが理解できる。 「知識・理解」

## (3) 単元の評価計画

評価の場面	能力	評価の観点	評価規準	評価方法
評価1	【知識】 環境問題	知識・理解	・資源・エネルギー問題全般についての様々な問題点を理解し、学習ノートの空欄を埋めることができる。	学習ノート
評価2	【スキル】 自分のことを客観的に認識する力 論理的思考力	思考・判断 資料活用の技能・表現	・自分の意見を内容的に過不足なく、簡潔で分かりやすくワークシートに記入することができる。	ワークシート
評価3	【スキル】 コミュニケーション力 全体を把握する力 価値判断力 異なる意見を最終的に集約する力	資料活用の技能・表現 思考・判断	・グループ内で協議しながら、模造紙に貼られたポストイットの整理をすることができる。	K J法を用いた成果物
評価4	【スキル】 コミュニケーション力 他者のことを理解する力 異なる意見を最終的に集約する力 課題を設定する力	思考・判断	・各グループの構成員が積極的に討論を行うことができる。	グループ討論の観察
評価5	【スキル】 自分のことを客観的に認識する力 ヒアリング力 課題を設定する力	資料活用の技能・表現	・ワークシートに発表や議論の内容及び自分の意見が適切に記入してある。	ワークシート 【資料1】
評価6	【スキル】 ディベート	思考・判断	・相手グループの意見を聞き、的確な反論ができる。	ディベートの観察
評価7	【スキル】 ヒアリング力 大量の情報の中から必要なものを収集し、効果的な分析を行う力 課題を設定する力	資料活用の技能・表現	・ワークシートに討論の内容を簡潔に記入することができる。	ワークシート 【資料2】

評価8	<p><b>【意識】</b> 学習意欲 環境との共生や持続的な発展を考える意識</p> <p><b>【スキル】</b> 異なる意見を最終的に集約する力</p>	<p>関心・意欲・態度</p> <p>思考・判断</p>	<p>・環境との共生や持続的な発展について意欲的に考察し、主体的な意見を述べることができる。</p> <p>・多様な意見を念頭に置きながら、総合した意見を述べるができる。</p>	ワークシート <b>【資料2】</b>
-----	---	------------------------------	---	------------------------

#### (4) 学習指導（4時間）

##### ア 第1時限

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の場面
導入 5分	身近な資源・エネルギー問題	・身近な資源・エネルギー問題について、思い付くものを発表する。	・教科書は見せず、思い付くものを発表させる。	
展開 40分	現代における資源・エネルギー問題	・現代における資源・エネルギー問題全体を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容に即しながら、どのような問題点があるのか学習ノートを利用して理解させる。</li> <li>・資源・エネルギー問題が身近な問題であることに気付かせ、どのような問題に興味があり、その問題についてどのような意見をもつかノートに記入させる。</li> </ul>	評価1
まとめ 5分	授業のまとめと次時の予告	・本時の要点の確認と次時の授業の予定を確認する。		

##### イ 第2時限

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の場面
導入 5分	前時の復習	・前時の授業における要点を確認する。	・教科書を用いて内容を再度確認する。	
展開 35分	エコカーについて	・エコカーの長所・短所について考察する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最近話題になっているエコカーについて、知っていることを発表させる。</li> <li>・エコカーが環境に良い理由をワークシートに記入させた上で、日本で普及が進まない理由を自分なりに考えさせる。</li> <li>・エコカーのメリット・デメリットについて個々の意見をポストイットに書かせて模造紙に発表させる。</li> <li>・貼られた意見を指名したグループにKJ法を用いて整理させる。</li> </ul>	<p>評価2</p> <p>評価3</p>

まとめ 10分	本時のまとめと次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> <li>出た意見を同じ内容でおおまかにまとめる。</li> <li>次時に向けた準備について説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の内容をふまえて、次時までにエコカーについてインターネットなどで個人でより詳しく調べ、次時のグループでの話合いに活用できるように指示する。</li> </ul>	
------------	--------------	---	---	--

#### ウ 第3時限

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の場面
導入 5分	前時の復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習内容の確認を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時で扱った模造紙を再度確認する。</li> </ul>	
展開 35分	エコカーについての研究協議	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の自分の意見を基に、ワークシート（資料1）に従ってグループ内で意見交換をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普及の障害や、普及促進のための方策などについてグループ内で討論させる。</li> <li>新たに調べてきたことも発表させる。</li> <li>適宜グループを巡回し、討論が進まないグループに対しては助言を行って討論が進むように導く。</li> </ul>	評価4
まとめ 10分	本時のまとめと次時への課題の提示	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内での話し合いをまとめ、次時にはグループで話し合いができるように準備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>答えを1つに絞らせないが、グループ員の意見をワークシートにまとめさせ、次時はしっかり意見が出せるようにする。</li> <li>エコカー自体を多面的にとらえることができるように指示する。</li> </ul>	評価5

#### エ 第4時限

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の場面
導入 5分	前時の学習内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の討論の内容を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを参考に前時に出た意見に付け加え等はないか確認させる。</li> </ul>	
展開 35分	エコカー導入についてのディベート	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在のエコカーの導入を拡大していくことの是非についてディベートを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート（資料2）に従ってディベートを進めさせる。</li> <li>聞いている生徒には、討論の内容の要点をワークシートに簡潔に記入させる。</li> </ul>	評価6 評価7
まとめ 10分	単元のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在のエコカーの問題点について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートに、本時の討論を踏まえて、自分なりの意見と感想を記述させる。</li> <li>指導者は最終的には何が正しいのかということには触れない。</li> </ul>	評価8

#### (5) 実践の成果と課題

生徒はさまざまな情報・資料をもとにエコカーについて考えてきた。中には、こちらが全く想定していなかったエコカー（ハイブリッド車）自体の危険性について調査してきたグループもあり、指導

者自身も勉強させられた。（ここで生徒が指摘した安全性については、後日、メーカーの開発担当の方から聞いた話の中で確認することができた。また、静寂性に起因する危険性についても、直後に新聞で大きく取り上げられ、こちらも驚いた）。無論、環境問題において避けて通ることができない、エコの推進と経済性の問題すなわち、環境に配慮していくためにはどうしても費用がかかってしまうことに自分たちで気が付いたグループもあった（資料1のワークシート参照）。

また、資源・エネルギー問題全体という観点からも、課題追究の過程で新エネルギーの問題点に関心を示した生徒がおり、後日の定期考査において、三重県青山高原における風力発電反対運動発生の理由を見事に答えた生徒が現れた。これは、課題追究学習の成果であろう。

さらに、独自に追究した結果を同じグループの生徒にぶつけることで、視野が広がった生徒も何人かいた。中には、「グループの意見はこうなったが」と前置きした上で、グループとしての意見に対する疑念を抱く生徒が出るに至ったことも、主体性と社会性の両立という点でシティズンシップが育成されたものと考えられる。

ただし、エコカーの概念に関する多様性にまではなかなか思いが至らない生徒が大半であった。例えば、ほとんどの生徒はヨーロッパでハイブリッド車が生産されていない事実までは把握しても、その背景まで思いが至らなかった（ただし、後にその点を指摘すると納得する生徒もおり、その生徒は、「そこまで思いが至るにはもう少し時間が欲しかった」という感想を述べた。そのような反応をする生徒がいたことも、課題追究学習の成果の一つと考える）。

また、中にはディベートにおいて議論がかみ合わなかったクラスもあった。そのこと自身は生徒も感じながら、その理由は分からなかったようである。やはり、ディベートという形態を経験する機会を増やすことが必要ではないかと感じた。

さらに、今回はワークシートの内容を評価するところで実践を終えており、考察を実践に移すところまでには及んでいない。シティズンシップは、学んだことを実践できてこそ意味があると思われる。実際の行動にまで至るような授業展開を企画することが今後の課題である。

## 4 授業実践Ⅱ（生命倫理）

### (1) ねらい

現代の生命倫理にかかわる諸問題全体を俯瞰した上で、尊厳死に関する新聞記事を題材とし、グループ討論などを通して、生命倫理の問題を多面的・多角的に考察させる。また、その結果を報告書にまとめることで文章表現力の育成を図る。

### (2) 目標

ア 生命倫理の諸問題を自己の在り方・生き方の問題として意欲的にとらえ、積極的な態度で討論に参加することができる。 「関心・意欲・態度」

イ 生命倫理に関する諸問題について、法制度を含む多面的・多角的な観点から人間の在り方・生き方について考察し、多様な意見の中から自分なりの結論を見いだすことができる。

「思考・判断」

ウ 生命倫理について、聞き取り調査や新聞記事の検索などを通して適切に情報を収集し、考察した内容等をまとめた上で簡潔に報告することができる。 「資料活用の技能・表現」

エ 生命倫理の諸問題は、相互に関連があり、豊かな人生を歩むための人間の在り方・生き方の問題につながることを理解できる。 「知識・理解」

### (3) 単元の評価計画

評価の場面	能力	評価の観点	評価規準	評価方法
評価1	<p>【知識】 医療・健康</p> <p>【スキル】 全体を把握する力</p>	<p>知識・理解</p> <p>思考・判断</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命倫理にかかわる諸問題全般について理解しながら、学習ノートの空欄を埋めることができる。</li> <li>・生命倫理に関する諸問題相互、又は食糧問題など他の現代社会の諸問題とのかかわりについて認識することができる。</li> </ul>	学習ノート
評価2	<p>【スキル】 全体を把握する力</p>	資料活用の技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事の事例を、簡潔かつ適切な文章でまとめることができる。</li> </ul>	ワークシート 資料4・資料5
評価3	<p>【スキル】 論理的思考力</p> <p>他者のことを理解する力</p>	<p>思考・判断</p> <p>知識・理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を適切な文章で表現することができる。</li> <li>・多様な意見を、法制度を含むそれぞれの立場に立って理解することができる。</li> </ul>	ワークシート 資料4・資料5
評価4	<p>【スキル】 コミュニケーション力 他者のことを理解する力 異なる意見を最終的に集約する力 課題を発見する力</p>	思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの構成員が積極的に討論を行い、各グループの意見をまとめることができる。</li> </ul>	グループ討論の観察 発表の観察
評価5	<p>【スキル】 コミュニケーション力 批判力 大量の情報の中から必要なものを収集し、効果的な分析を行う力 ヒアリング力 価値判断力</p>	思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他のグループの意見を聞いて自分の意見や他の意見を批判的にとらえ、多面的・多角的に考察することができる。</li> <li>・多様な意見を踏まえながら主体的な意見を記述することができる。</li> </ul>	グループ討論の観察 ワークシート 資料4・資料5
評価6	<p>【スキル】 交渉力 課題を設定する力 フォローアップ</p>	思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループ内で協議を行いながら意見の調整を図り、各自の追究課題を設定することができる。</li> </ul>	グループ討論の観察

評価7	<b>【スキル】</b> 大量の情報の中から必要なものを収集し、効果的な分析を行う力 ヒアリング力 価値判断力 フォロアースhip 批判力	思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表者の意見を聞き、的確な質疑応答をすることができる。</li> </ul>	グループ討論の様子
評価8	<b>【知識】</b> 社会的規範  <b>【意識】</b> 人権・尊厳の尊重 法令の遵守  <b>【スキル】</b> 論理的思考力 価値判断力 全体を把握する力	知識・理解  関心・意欲・態度  思考・判断  資料活用の技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>生命の尊重と人権擁護及び法令遵守のバランスのとれた状態を目指すことが正しい法的精神であることを理解できる。</li> <li>正しい法的精神の在り方を実践する態度を身に付けることができる。</li> <li>多様な立場の意見を踏まえ、多面的・多角的な考察を行うことができる。</li> <li>自分の意見を適切な文章でまとめることができる。</li> </ul>	最終報告書

#### (4) 学習指導（4時間）

##### ア 第1時限

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の場面
導入 5分	生命倫理とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>生命倫理にかかわる問題としてどのような問題があるか、考えて発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書は見せず、思い付くものを発表させる。</li> </ul>	
展開 40分	現代における生命倫理に関する諸問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代における生命倫理にかかわる諸問題の概要を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の内容に即しながら、どのような問題点があるのか、学習ノートを利用して理解させる。</li> <li>様々な問題があるが、それぞれの問題が相互に、あるいは環境問題、資源・エネルギー問題や食糧問題といった現代社会の諸問題ともかかわりがあることに気付かせる。</li> </ul>	評価1
まとめ 5分	授業のまとめと次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の要点の確認と次時の授業の予定を確認する。</li> </ul>		

##### イ 第2時限

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の場面
導入 5分	前時の復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の授業における要点を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を用いて内容を簡単に確認する。</li> </ul>	

展 開 30 分	尊厳死について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 尊厳死についての新聞記事（資料3）を読み、事実の概要をワークシート（資料4・資料5）にまとめる。</li> <li>・ 患者の要望及び病院の対応について考察する。</li> <li>・ 新聞記事の具体例についてのグループ討論を行い、グループとしての意見を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適切な文章で表現するように指導する。</li> <li>・ 記事を読んで最初に感じたことを文章で表現させる。その上で、記事に出てくる様々な立場の人の意見とその根拠や気持ちを考えさせ、記述させる。</li> <li>・ グループ内で記事に出てくる各立場を一人ずつ分担し、患者の要望に対する意見やとるべき対応について協議させる。</li> <li>・ グループ討論の様子については評価の対象とすることを宣言する。</li> <li>・ 適宜グループを巡回し、討論が進まないグループに対しては助言を行って討論が進むように導く。また、消極的な生徒がいる場合には、発言を促す等、教師による支援を行う。</li> <li>・ 他のグループの発表についてはその要点をワークシートに記入させる。特に、自分のグループで出なかった意見については留意させる。</li> </ul>	<p>評価2</p> <p>評価3</p> <p>評価4</p>
ま と め 15 分	本時のまとめと次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他のグループの発表を踏まえ、再度グループ内で協議し、グループとしての最終見解をまとめる。</li> <li>・ 本時の討論を踏まえ、グループとしての最終見解に対する個人の意見をワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まず、自分のグループの意見を見直すべきかどうか検討させ、その上で最終見解をまとめさせる。</li> <li>・ グループの意見に対する疑念があれば、率直に記入させる。</li> </ul>	評価5

ウ 第3時限

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の場面
導 入 5 分	前時の復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の学習内容の確認を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時に扱った内容を簡潔に確認する。</li> </ul>	
展 開 40 分	追究課題の決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1時間目に学習した生命倫理の諸問題の中からグループとして追究するテーマを決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループに分かれ、各グループのテーマを決定させる。その際、三つまで希望を挙げさせ、希望がぶつかった場合の調整ができるようにする。</li> </ul>	評価6



	課題追究の方法の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループテーマの決定を受けて、その中で個人の追究課題を決める。</li> <li>課題追究に当たって行う資料や情報の収集法について教材を用いて確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内で話し合わせ、個人の追究課題を決定させる。追究課題によっては、二人が同じ追究課題になることを認める。</li> <li>適宜グループを巡回し、追究課題設定についての助言を与える。</li> <li>追究課題が決まったら、報告用紙に記入して報告させる。</li> <li>情報収集の方法として、インターネット検索や新聞記事のほか、聞き取り調査という方法もあることを示す。ただし、それを実施する場合の注意事項も説明する。</li> </ul>	
まとめ 5分	次時への課題の提示	<ul style="list-style-type: none"> <li>次の授業の予告を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次時の課題追究学習の授業までに各個人の追究課題について調査及び情報収集を行い、中間報告ができるようにまとめることを指示する。</li> </ul>	

#### エ 第4時限

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の場面
導入 5分	前時の学習内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の授業の学習事項を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の課題について確認する。</li> </ul>	
展開 40分	課題の中間報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内で各自のレポートを報告し、質疑・応答を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループを巡回し、生徒の発表に対し可能な限り質問を行い、グループ内の協議を活発にさせる。</li> <li>自分のレポートの裏面又は余白に、グループ内の他の生徒の意見で気になったことを記録させる。</li> </ul>	評価7
まとめ 5分	本時のまとめと今後の予定の提示	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終報告に向けたレポートの書き方について学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終報告書提出要領を配付し、その様式で書き直すように指示する。</li> <li>今後、指導者が中間報告を確認し、事前の指導を行うことを予告する。また、新たな資料を提示することは許可する。</li> </ul>	

#### オ 事後指導

提出された最終報告書の評価を行う。	評価8
-------------------	-----

#### (5) 実践の成果と課題

今回の課題追究学習では、グループ討論の成果を基に各個人で課題テーマを設定し、情報を収集しながら追究学習を行い、最終的に報告書としてまとめるところまでを行った。最終報告の完成の前に、中間報告書を提出させたところ、報告書（小論文）の体裁をなさないものが多かったため、中間報告

提出後の個人指導については、小論文の書き方の指導まで行わざるを得なくなってしまったことは反省点であった。

今回の課題追究学習においては以下の二点がシティズンシップの育成に資するものとする。

- ① グループ討論の中で、各メンバーのそれぞれが全く別の、つまり多様な立場に立って考察し、議論を経て一つの結論を出す。
- ② 生命倫理にかかわる法制度と、問題に直面している人々の気持ちや願いとのギャップを知り、「法の本質」について考察させることを通して正しい法的精神を理解させる。

前者については、グループ討論の様子から成果があったものとする。後者については、「法よりも個人の気持ちを大事にするべきである」という立場か、「法なのだから守らなければ仕方がないではないか」という両極端の意見に割れた。しかし、法制度の必要性を感じながらも、どこまでその原則に従うべきかを考えた上で、「現状では法令に従うべきである」又は「このような場合なら認めてもよいのでは」という表現を用いて報告をまとめた生徒は多く、法的精神の理解について成果はあったと感じている。

法教育の要点の一つには、「法的安定性と具体的妥当性」すなわち「秩序維持を十分に念頭に置きながらも、個々の特殊事例について、どのように考えて柔軟な対応を行うべきか」を考えられるようにすることがある。この点に関連して、ある生徒が、尊厳死の賛否について次のような議論を展開した。

「自己決定権は、自分の生き方・生活について自由に決定する権利であり、他人に迷惑をかけない限り何をしてもよいという主張である。その迷惑とは、犯罪もしくは公共の福祉に反しない限りであるとする。迷惑行為イコール違法行為であると解釈できるので、法に触れない範囲の尊厳死、あるいは人の権利や利益を害しない範囲の尊厳死が万が一あるとするならば、尊厳死は認められるべきであるとする」（筆者で表現を一部修正）

この生徒は結論として、尊厳死は例外なく迷惑な行為であると考えられるので賛成できないとした。この意見が正しいか否かは別にして、よく調査し、考察した結果であると考えられる。

なお、課題追究学習としては、情報の収集量が少ない報告が目立った。ことに、臓器移植法案の審議が始まるころであったことや、新聞で尊厳死にかかるレポートが連載された時期でもあるなど、新聞等の資料も豊富にだけ残念であった。限られた時間内の情報収集をいかに行わせるかについては今後の課題であろう。

## 【参考文献】

- 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 公民編』 1999年 実教出版  
経済産業省 『シティズンシップ教育宣言』 2006年  
経済産業省 『シティズンシップ教育と経済社会での人々の活躍についての研究会報告書』 2006年  
鈴木崇弘他編著 『シチズン・リテラシー』 2005年 教育出版  
法教育研究会 『はじめての法教育－我が国における法教育の普及・発展を目指して』 2005年

エコカーについて考えよう②

(1) エコカーについて調べ、新たにわかったことを書きましょう。

エコカーニ 低公害車 ... 大気汚染物質の排出が少なく、環境への負担が少なり自動車。主な種類 ... 燃料にガソリン(内燃機)と代替エネルギーを併用するもの。電気自動車・ハイブリッド自動車

(2) (1) の内容について、他の人の意見を聞いて記録しましょう。

・エコカーはエンジン音が小さい、走行音が少ない場合が多い。また、燃費が良い。ガソリン自動車の種類が多いため、燃費が良い。ガソリン自動車の種類が多いため、燃費が良い。ガソリン自動車の種類が多いため、燃費が良い。

(3) エコカーの普及が進んでいない理由を話し合い、グループ内で意見をまとめましょう。

金が高い。小生能が悪いのが改善されていらない。修理が大変。金もかかる。車も壊れやすい。ガソリン車は修理が簡単。ガソリン車は修理が簡単。ガソリン車は修理が簡単。

(4) エコカーが普及していくためにはどのようなことが必要だと思いますか？グループ内で1つ考え、出してみましょう。

値段を安くする。(修理代も安くする)。  
 ○ガソリン車をエコカーに改造!!  
 ↳ ガソリン車を処分して、環境にやさしい。

年 組 番氏名 \_\_\_\_\_

エコカーについて考えよう②

(1) エコカーについて調べ、新たにわかったことを書きましょう。

「LPガス自動車」... LPガスを燃料としたエコカーで、タワシナーなどについている。  
 単にエコカーと言ってもたくさんの種類がある。

(2) (1) の内容について、他の人の意見を聞いて記録しましょう。

排気ガスを出さずに水を出すエコカーもある。  
 二酸化炭素の排出量が石油自動車より2.3割少ないエコカーもある。  
 電気自動車は騒音が少ない。ガソリン車のエンジン音が大きい。ガソリン車のエンジン音が大きい。

(3) エコカーの普及が進んでいない理由を話し合い、グループ内で意見をまとめましょう。

石油自動車からエコカーにかかると、お金の差がある。ガソリン車の存在が大きい。ガソリン車の存在が大きい。ガソリン車の存在が大きい。

(4) エコカーが普及していくためにはどのようなことが必要だと思いますか？グループ内で1つ考え、出してみましょう。

エコカーを買った人に、税金を返す。  
 (ガソリン車を処分するのを無料、エコカーを使うのを奨励)。  
 (登録して高速道路の代金を一部返金)。

年 組 番氏名 \_\_\_\_\_

エコカーについて討論しよう！！

(1) エコカーが普及していない理由、またその解決策をグループごとに発表しましょう。なお、各グループの発表の要点を簡潔に記入すること。  
また、各グループの発表を評価しましょう。評価基準は以下の通りです。

- ☆評価基準☆  
A: とても聞き取りやすく、内容的にもとても簡潔でわかりやすかった。  
B: 大体聞き取りやすく、内容も理解できた。  
C: 聞き取りにくく、内容もよく理解できなかつた。

	<評価>	
A班	エコカー 他班より、早体すぎ、関心が低い。	B
B班	普及の理由には、Zカーと似た、似た関心を集める。 他班より、状況試験的有段階、下らないところがあるが、関心が高い。 将来のこのような固定観念がある。10、50分がある。	A
C班	エコカー以外の車を販売停止、普及の理由。 充電車が普及する、価格が下がると、普及の理由。 普及の理由、時間X エコカーは普及すると、買ひ損えが必要ない。	B
D班	普及の理由、時間X エコカーは普及すると、買ひ損えが必要ない。 普及の理由、時間X エコカーは普及すると、買ひ損えが必要ない。	A
E班	普及の理由、時間X エコカーは普及すると、買ひ損えが必要ない。 普及の理由、時間X エコカーは普及すると、買ひ損えが必要ない。	A

(2) (1) の内容をふまえて、「現状のままのエコカーを普及させること」についてグループで賛成・反対の立場を決め、選択肢に丸をつけよう。また、理由も記入しよう。

現状のままのエコカーを普及させることに 賛成 どちらかといえど賛成 どちらかといえど反対 反対
ガソリン車の処分に困る。
エコカーはただ洗車屋の上から普及させるとは考えられない。 普及させるとの問題。(消費者は、危険)

【齊 2 生徒のワークシートより (授業課題 I) ②】

(3) それぞれの立場に立ってディベートを行ってみよう。そしてどちらのグループが優勢であったか理由も含めて評価しましょう。なお、評価する人はそれぞれ別の意見を簡潔にメモすること。

①賛成側立論 長距離X 短距離環境に良い。 他班もガソリンも良くない、ダメだ。 新しいも思いついた、企業も人回し、子	②反対側質問 長距離の場合、どうする?
④賛成側質問 本部議定書で、制限もあるのに、全然普及してないのはどうして?	③反対側立論 改善点がある。 現状、古い車は、整備 馬力や性能の向上、より、
⑤賛成側反論 (第1回目) エコカー 馬力問題に悩んでいる。 飛行機も、と利用。地球生活。 エコカーは、二車か(1)が、	⑥反対側反論 (第1回目) 普及させると、エコカーは、 現状、古い車は、整備 馬力や性能の向上、より、
⑧賛成側反論 (第2回目) 2004年現時点で、エコカーは、普及している。 今、他班も、一歩進化した。	⑦反対側反論 (第2回目) 馬力や性能の向上、より、 エコカーは、普及している。 今、他班も、一歩進化した。

内容が、このように、

C. グループの勝ち  
理由 正直、両方の向きが、同じ方向に、進んでいく、という、  
初期は、反対側が、優勢、という、  
結果全体を見渡すと、現状は、エコカーが、優勢、という、  
(4) 討論の内容もふまえて、自分の意見をまとめてください。

エコカーの普及、環境のために推進するべき、という、  
エコカーの普及、環境のために推進するべき、という、  
エコカーの普及、環境のために推進するべき、という、  
エコカーの普及、環境のために推進するべき、という、

# 呼吸器外し意思尊重を

## 千葉・ALS 病院倫理委が提言

千葉県鴨川市の亀田二一。総合病院の倫理委員会がことし四月、全身の筋肉が動かなくなる難病「筋萎縮性側索硬化症(ALS)」の男性患者が提出した「病状が進行して意思疎通ができなくなった時は人工呼吸器を外してほしい」という要望書について、意思を尊重するよう病院長に提言した。ALS患者のこし

患者は同県内に住む六十八歳の男性で、四十九歳でALSを発症。一九九一年に呼吸困難に陥り、同病院で呼吸器を付けた。現在は呼吸器を外すにはおにスイッチを付けてパソコンを操り、執筆活動などをしている。ALSは進行するとまぶたも開けられず、意思疎通が全くできなくなる場合がある。男性はそうした状態は「耐えられない」として昨年五月、「現在は

人生を謳歌しているが、意思疎通できなくなったら呼吸器を外して下さい」との要望書を病院に提出した。院長の諮問を受けた倫理委は今年二月まで三回にわたり議論。委員長の田中美千裕(脳神経外科部長)によると、慎重意見もあったが、最終的には十四人の委員全員が「前向きに生きる本人と家族が十分考えた上で望んでおり、意思に沿う形で動いてはどうか」との意見でまとまり、四月に院長に口頭で伝え、留意点を書面にまとめた。

た要望について病院の倫理委が判断したのは異例という。

同病院の亀田信介院長は「現行法では呼吸器を外せば(殺人容疑など)逮捕される恐れがあり、難しい。社会的な議論が必要」として、呼吸器外しには難色を示している。難病患者を支援する関係者も「自分の意思で外すことを認めれば、患者が周囲に気兼ねして死を選んでしまう恐れがある」と懸念して

同病院の亀田信介院長は「現行法では呼吸器を外せば(殺人容疑など)逮捕される恐れがあり、難しい。社会的な議論が必要」として、呼吸器外しには難色を示している。難病患者を支援する関係者も「自分の意思で外すことを認めれば、患者が周囲に気兼ねして死を選んでしまう恐れがある」と懸念して



生命倫理を考える 番氏名

生命倫理について、別紙資料を読んで考えよう。

(1) 事実の概要 (患者本人の要望・意見を含む) を簡潔にまとめよう

ALSになってしまい、全身の筋肉がだんだんに重かなくなっていく。呼吸器を外してはいけい。「耐えられないう」と意見を述べている。

(2) それに対して、あなたは今、是認・肯定論に立ちますか、否認・否定論に立ちますか、その理由を共有書いて下さい。

私の立場は... 肯定・是認的立場 否定・否認的立場 (どちらかに丸を)  
 理由 自分が病気がかり、体がだんだん弱くなっていくと、家族にもいろいろ迷惑をかけてしまう。難病でどう治すことができないから、状況で意思疎通ができなくなれば、患者のように私もこのような考えにたどり着く。

(3) では、次の立場にある人が考えるであろう意見 (理由・根拠を含む) を、考えて書いて下さい。

担当医師 担当医師はやはり、患者の意見を通じたいと考える。呼吸器を外すという行為は違法なので、難しい。  
 病院 (院長) 患者の意見を聞いてあげたいが、今日では認めるとはできない。評判が悪くなる。  
 本人の家族 患者の意見は認めてほしいし、本人の考えのどきを叶えてほしい。  
 警察・司法担当 患者の意思があるとして、これは殺人容疑などで違法なので、肯定にはならないし、認めない。  
 難病者支援団体 生き続けたいと希望している。

(4) 各グループに分かれ、(3) で出てきた立場を一人ずつで分担し、この患者の要望に対するなすべき対応をグループ内で協議し、発表して下さい。その際、同じグループ内の人に意見について、自分が考えた意見と違う意見などがあれば要点を記入して下さい。

担当医師 法律でも呼吸器を外せばいいし、病院は命を助かるものなので、やはり外してはいい。はい。

病院・院長	社会的に認められたいの21 許可はできなからい
本人の家族	同じである。
警察・司法関係者	病院が作った感じになる
難病者支援団体	同じである。
グループとしての意見	本人の意見の尊重

(5) 他のグループの発表の要点や自分たちのグループでは出なかった意見等を書いてください。

A	
B	本人の意見を尊重すること、辛くなること、一番入ることであると述べている。
C	
D	私たちのグループと同じような意見をもっており、本人の希望通りにしてあげたいが、違法であると思うと難しくなってしまう。

(6) 以上の議論を通して、最終的なグループの立場・意見を話し合っ決定し、その理由を書いて下さい。(条件付きの場合、その条件も明示) また、それに対する個人の意見も書いて下さい。

グループとしては...	肯定	条件付きで肯定	条件付きで肯定	条件付きで肯定	否定	否定	(一つに○を)
本人の意見通りに死んでしまふと、医師側は責任があつてしまふし、家族の負担も大きかかつてしまふ。そのための、そう簡単には死なせないでほしい。	いいじゃないかと思う。	と考へていふ。					
個人としては...	肯定	条件付きで肯定	条件付きで肯定	条件付きで肯定	否定	否定	(一つに○を)
個人としては、意見は交わさず、本人の意思で死を選んでもいいと思ひ、本人の尊重が大前提だが、やはり違法なので、本人と医師の意見が一致して死んでほしいのではないかと思ふ。やはり、他に誰か判断してほしいか。							